



## 口腔崩壊状態の子供が増えている?!

### 「口腔崩壊」という言葉をご存知ですか？

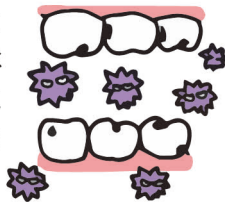


「口腔崩壊」とは、歯の状態が非常に悪くなってしまっていて、食べ物がうまく噛めなくなっている状態を言います。そう聞くと、高齢になって歯がなくなってしまう状態を想像する方が多いかもしれませんが、この「口腔崩壊」の状態に陥っている子供たちがいるのをご存知ですか？

口腔崩壊は、厳密に定義されているわけではありませんが、むし歯が極端に多い状態を指し、一般的には、「未処置のむし歯が10本以上ある」「歯の根っこしか残っていない状態の歯がたくさんある」といった状態のことを呼んでいます。

近年は、昔に比べてむし歯予防の意識が高まっているため、むし歯にかかっている子供の割合は全体からすると減少していますが、このような口腔崩壊の状態にある子供たちというのは一定数おり、また増えているとも言われています。

口腔崩壊になると、歯茎でしか噛むことができないため、きちんと食べ物を消化できないばかりでなく、歯から入ったばい菌が周囲に広がり、健康状態を損ねてしまう原因にもなります。



### 子供の口腔崩壊の原因は？

子供の口腔崩壊は、保護者の健康に対する理解不足、経済的困難、仕事が忙しく働きづめで歯医者に連れて行く時間がなかなか取れない、子供の口腔ケアをする時間的余裕がない、という背景が考えられます。保護者が口腔内の健康に対して理解がないと、歯磨きがおろそかになるのはもちろん、「乳歯だから抜けるものだし、治療しなくても良い」「痛くなってから治療すれば良い」となってしまいがちでしょう。

また、食事に野菜などが少なく、炭水化物(糖質)が多い、というような食生活での問題も関係しているようです。

子供の歯というのは、むし歯にかかりやすく、とてもむし歯の進行がはやいのが特徴です。歯医者に長くかからないでいると、お口の状態が一気に悪くなってしまうこともあります。

今後、このような口腔崩壊の子供たちが減るような取り組みを学校や自治体、地域の歯科医院が協力し合って解決していく必要があると言えるでしょう。



## 歯の治療の繰り返しは歯の寿命を短くします

むし歯の治療が終わって数年後、痛みや違和感などの症状が出て受診。再度むし歯の治療を行い、また数年後に症状が出て治療。

このようなサイクルを繰り返していると、治療のたびに歯は削られ小さくなってしまいます。そして、歯を残すことが難しくなると抜くしかありません。

歯を抜いた後は、入れ歯・ブリッジ・インプラントなどの歯を補う治療が必要になります。入れ歯やブリッジは周囲の健康な歯を支えるため負担がかかり、将来、その歯の治療が必要になることがあります。治療で歯を削らなくて済むように、定期的にお口のチェックとケアを受けましょう。

### 治療のサイクル

